

韓国・双龍自動車労働者を支援する決議

韓国では昨年末の大統領選挙以後、結果に絶望した労組活動家が5人も自殺するという悲惨な事態が起きました。そういう状況の中で今、双龍（サンヨン）自動車解雇労働者問題が大きな焦点になっています。

双龍自動車では2009年に整理解雇撤回を求める77日間の激烈なストライキ闘争がありました。会社側は全労働者の36%の2646人を整理解雇対象にしました。整理解雇を拒否した974人のうち組合員640人に対して無給休職と営業前職48%、希望退職52%という非常人材運営計画を労組が受け入れ、1年以内に無給休職者を復職させるという内容で労使が劇的に妥結しました。

しかし、その後3年半の間、会社は中国上海自動車からインド自動車会社であるマヒンドゥラに再び売却されました。その間、労働者と家族24人が自殺しています。その衝撃で死に至ったのです。

このような状況に対して金属労組双龍自動車支部は、亡くなった同志たち24人を追悼する焼香所をソウル大漢門の前に設置して座り込み闘争を始めました。さらに昨年11月、平澤（ピョンテク）市にある工場の前送電塔に組合員3人が上がって高空闘争を始めました。寒い中、体感温度は零下30度です。現在100日が過ぎました。

労働者の闘いに押されて与党セヌリ党が大統領選挙の過程で、双龍自動車問題に関する国政調査をすると約束しました。しかしまだその約束は履行されていません。国政調査をすれば、会計操作で整理解雇をした事実と、殺人的鎮圧でストライキを弾圧した問題に対する責任が自ずと明らかになるでしょう。会社側は国政調査を回避しようと欺瞞的に無給休職者の復帰を決めましたが、2010年8月に復帰させるという約束が2年6か月も引き延ばされただけです。

金属労組双龍自動車支部は国政調査の実施と解雇労働者の復職を求める100万人署名を訴えています。労働者には国境はありません。新自由主義に抗し、金属労組双龍自動車支部の闘争を支援しましょう！